

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400606		
法人名	特定非営利活動法人 幸の里		
事業所名	NPO法人 グループホーム 幸の里		
所在地	岐阜県羽島市中下町城屋敷579-1		
自己評価作成日	平成25年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosvoCd=2170400606-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『グループホーム幸の里』は羽島市の農村地帯にあり、かつての集落共同体が残存する地域であり、まさに地域密着型の施設です。開設当初より、地域の方々の支援、協力を受け今日に至っています。ホームは築140年の古民家を改築し、居室はすべて和風で家庭的な雰囲気有し、施設感はありません。利用者が「わが家」として暮らせる環境を提供しております。職員は精神科勤務経験者のベテラン看護師4名、薬剤師1名、介護支援専門員2名、精神保健福祉士1名、認知症ケア専門士1名、介護福祉士1名等々を配置し、医療系のケアを提供する施設として8年が経過しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(一泊旅行同行記)
恒例になっているグループホームの一泊旅行に同行した。宿泊先は琵琶湖の湖畔にある大きなホテルである。体調が悪くて参加できない1名を除く8名の利用者が、職員、家族、地域のボランティアの支援を受けてバスに乗り込んだ。途中で昼食や観光を楽しみ、ホテルへの到着は夕方4時。すぐに貸切風呂での入浴支援が始まり、6時半の宴会開始時には艶やかで上気した笑顔がそろった。「思いで作り」に参加された奥さまと水入らずのひと時を楽しむ利用者、久しぶりのアルコールに舌鼓を打つ利用者、豪華な料理をあっという間に完食してしまう利用者等々、参加した利用者全員に幸福な時間が流れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大家族」利用者が肩の力を抜き安心して生活できるよう心掛け、時には冗談を言って笑ったり利用者同士も入院中の人はいっ帰ってくるの など心配したりする。	基本理念は「大家族」であり、民家を改造したホームの中で、家庭的で温かみのある支援を行っている。1年に1度は、この大家族全員が一泊旅行を楽しむ。今年度は、大家族が「琵琶湖」まで足を伸ばした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人が畑で作った野菜を持って来てくれたり 施設で作った野菜を食べてもらったり、散歩時には声を掛けてもらったりしている。	地域の社会的な資源として、その役割を十分に発揮している。ホームに欠けているものを地域が補充し、地域に足りない部分をホームが補っている。ホームの存在そのものが、地域にとっての安心感となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には参加していただいたり、防災訓練にも協力していただいています。敬老の日には利用者と同じ手作り弁当を配布し感謝の気持ちを表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症は楽しい より一層理解をしてもらい、利用者が皆家族と思えるよう努力している。	規定回数をクリアできてはいないが、運営推進会議では参加者が有効な意見交換を行い、認知症やグループホームの正しい理解につなげようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例などの協力施設としての取り組みなど伝えている。	ホームには看護師資格を持った職員が多く、医療面でのケアに自信を持っている。訪問調査日にも、隣接する県の病院から、受入れ可否の打診があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、出入りは自由である。座位が保てない利用者を寝たきりにしたくない家族の要望もあり、同意の上で安全の為ベルトを使用することもある。	民家を改造したため、玄関を入るとコンクリートの土間(たたき)がある。廊下から土間への転落を防止するため、木製の柵を設けているが、鍵は簡単に外せる仕組みになっている。玄関は常に施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は病気を理解し、言いたいことが言える関係を作り ストレスを溜めないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しているが活用する事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ケアに対する考え方 取り組み方 料金など説明し納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者や家族に参加してもらい、要望には満たせるようにしている。	家族は、ホームの医療的介護の充実や専門性の高さに信頼を置いており、安心して任せている。運営推進会議への出席や一泊旅行への参加を通して、家族も「大家族」の一員になりつつある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、食事会、旅行など行っている。	管理者と職員間の力量差があり、率先垂範の管理者に対して、職員からの意見や要望が出ることは少ない。	可能な限り権限や役割を職員に移譲し、次に続く後継者を育てる取り組みにも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し 研修なども参加 資格取得の支援など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加 勤務時 場面場面で教育(OJT)を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は本人の赴くままの生活をしてもらい 言動行動を観察し症状パーソナリティーを把握後信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を充分聞き サービスを開始している。入所後は些細なことでも家族に連絡し状況が分かる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が早く施設に馴染めるよう見守る。医療連携も取っているので状態に応じて専門医に診てもらい相談しながら本人も家族も安心して生活出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員の壁が無く家庭内での自然な対応が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも家族に連絡し生活状況が分かる様努め 面会時には自室にて家族水入らずで過ごしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣 親類など訪問の受け入れ 友人とコーヒーを飲みに行くなど外出もしている。	利用者の中には地域に住んでいた人も多く、その友人が訪れたり、連れだって出かけたりしている。元気な利用者が多かったころには、近所のお年寄りがゲートボールに誘ってくれたこともあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごすことが多く職員も皆に声掛け、散歩時も利用者同士が車椅子を押しあいお喋りしながらあるいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じ経過も把握して居り必要に応じて再入所も受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えなどは記録して居り出来る限り希望に叶う様心掛けている。	重度化が進んでおり、自身の思いや意向を口に出せる利用者が少なくなってきた。職員は、利用者の発した簡単な単語やしぐさから、思いを導き出して支援につなげようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族 ケアマネージャーから情報提供をしてもらい 本人からも話を聞いたり日々の会話の中で情報を拾ったりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察して居り心身状態の変化にも早く気付く様心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度話し合い家族にも連絡をとっている。	医療的なケアに重点を置いた特色あるホームであり、介護計画にも医療的な観点からの課題を設け、目標設定をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌に記録して居り職員間で情報を共有しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を理解しその時々必要に応じたサービスを多機能に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑で作物と一緒に収穫したり、歩けない利用者も見学し手に持ったり、地域住民の差し入れも皆で食べ楽しんでる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制が出来て居り本人家族も納得の上医療をうけている。	職員の中に管理者を含め4名の看護師、准看護師がおり、24時間365日の医療連携体制を支えている。利用者、家族の安心感は絶大である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面やメンタル面など日々の気づきを介護職は看護師に伝え協力し合い適切な受診看護をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時 必ず同行し、入院中も頻りに万回に行き病院関係者とも情報交換し相談などもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族の希望を聞きターミナルに入った時には医師に説明して頂き話し合いながら方針を決めて行く。	利用者、家族の多くがホームで最期を迎えることを希望しており、これまでも多くの看取りを行ってきた。看護師資格を有する職員が多いこともあり、看取りを「普通のこと」として捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し職員全員が研修を受けている。急変に対しても実践して身につけている。他初期対応など指導は受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	掃き出し窓になっておりどこからでも避難出来 近隣の方の協力体制も出来ている。	民家改造の木造建築のため、火災による人的な被害が心配されていたが、スプリンクラーの設置や居室の改築(掃き出し窓への改造)により、不安は大きく軽減された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所当初は丁寧語を使い 信頼関係が形成されつつある中で普通会話に切り替えているが、尊厳は重視している。	管理者を筆頭に、時として語気の強い言葉や命令調の言葉が飛び交うが、その言葉の一つ一つに、利用者への思いやりが含まれている。利用者は、それを肌で感じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は職員に対して言いたい放題 口数の少ない利用者に対しては声掛け 言葉が出るまで待つなど重いななど聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として散歩や体操などは参加する様働きかけるが殆んど利用者ペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみはできている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて要望に答えている。準備片付けなど出来る人にはやってもらっているが無理強いはしない。	重度化の進行とともに、調理を手伝える利用者はほとんどいなくなった。利用者全員に同じ食事を並べ、利用者の目の前で「キザミ食」に刻んでいく配慮がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分量 排尿量を計量し個々の健康状態に応じ都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 本人の力に応じた口腔ケアは欠かさず行って居り 夕食後には義歯は入れ歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している利用者以外は各部屋にポータブルトイレを置き 各自の排泄パターンに合わせて誘導している。	極力おむつの使用を減らす取り組みをしており、夜間も各居室にポータブルトイレを設置して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事でも水分も多く摂ってもらうようトロミを付けたり工夫している。 散歩にも参加してもらうよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	集団生活なので曜日は決まっている。 入浴を楽しむ為 温泉にもいっている。	原則1日おきの入浴となっており、安全を最優先した支援となっている。利用者の楽しみは、毎年1回の一泊温泉旅行である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴 散歩など行い 冬季は布団を電気毛布で温め入床時の寝つきを良くしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の説明もあり 薬剤の目的 副作用等は理解しており 観察し変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな利用者とはDVDで懐メロを掛け一緒に歌ったり 散歩に出たいという利用者とは一緒に出たり 洗濯物など畳んでもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に戸外に出る様にしている。 温泉 一泊旅行 外食 コーヒータイムなど	天気が良ければ、利用者と職員が連れ立って散歩に出かけている。ホーム周辺は自然に恵まれ、季節の草花や野を渡る風に、利用者は四季を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として金銭は持ってもらわない事としている。 とられ妄想でトラブルの元となる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話 手紙のやり取りは出来る様にしているが自ら出来るひとは少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家改造型で施設感は無く木の温もりがある。 生活管は十分ある。 温度などは特に気を使っている。	古民家を改造したホームであり、大きな仏壇もそのまま設置してある。その隣には、戦国時代の合戦で使用された鎧が鎮座している。利用者は、ここが自分の家であると、信じて疑わない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファー 玄関先にベンチ を置き利用者同士でお喋りしたり犬猫と遊んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳に障子 写真や花などを置き使い慣れた物は自由に持って来てもらっている。	それぞれの居室が大きさも違い、仕様も異なっている。畳の部屋にベッドを持ち込んだり、布団を敷いて寝たりと、利用者それぞれが自由に居室を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて 手すりやポータブルトイレを置き 家具も角の無い物にして安全かつ自立に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 NPO法人 幸の里

作成日: 平成26年4月30日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	管理者と職員間の力量差があり、率先垂範の管理者に対して、職員からの意見や要望がでることは少ない。	年間に時期を決め、食事会、旅行を行い、意見や要望の収集に努める。又、毎日の事項としては、当日のスタッフ全員が揃った時点でミーティングを実施し、職員間の情報共有に努める。	ミーティングに関しては、毎朝午後9時ごろに全員による会議、打ち合わせを実施している。食事会や旅行は年間の計画により実施。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。